

令和7年度研究奨励交付金事業 成果報告会

【プロジェクト研究：国際研究（2年目）】

社会変動期にあるネパールの若年層の抑うつや
自殺の増加と階層差の関連：日本との比較から



吉岡和子・佐野麻由子

報告の概要

1. 研究の目的
2. 1年目の研究成果
3. 2年目の研究報告
4. 調査から得られた知見
5. 今後の研究計画



本研究の1年目の成果の一部は
人間社会学部紀要第33巻第2号に掲載

1年目の研究成果

- ネパール：拡大家族で家族の絆が大変強く、多世代にわたる様々な関係性が身近にあり、他者との葛藤やサポート経験が多い。自己決定の幅は狭いが選択に伴うリスクは少ない。

→具体的な他者や現実的な問題への不安？

- 日本：核家族化が進み、関係性のバラエティが少なく、葛藤やサポートを経験できる機会が少ない。自己決定の幅は広いが、選択に伴うリスクは大きい。

→抽象的な他者や漠然とした不安？

2年目の研究報告

【目的】日本とネパールにおける若年層の悩み、生き方、対人関係を比較し、各国の特徴を明らかにするとともに経済的発展と若年層の精神疾患や精神的な不調を生起する普遍的な構造的背景を明らかにすること。

2024年度の研究成果（佐野麻由子・吉岡和子（2025）「社会変動期にあるネパールの若年層の抑うつや自殺の増加と階層差の関連：日本との比較から(1)」『福岡県立大学人間社会学部紀要』33（2）：99-112）を踏まえ、本報告会では下記2点に焦点をあてる。

- 問1：ネパールと日本の青年の抑うつや不安に違いはあるのか
- ⇒問1-2：どのような対人関係の在り方が関係しているのか
- 問2：ネパールと日本の青年の再帰性に違いはあるのか
- ⇒問2-2：どのような社会構造が関係しているのか

質問紙調査の概要

調査名称

日本とネパールにおける若年層の悩み、生き方、対人関係の国際比較
International comparative study on worries, lifestyles, and human relationships of young people in Japan and Nepal

調査対象

日本：福岡県内の国公立私立大学

ネパール：カトマンズ大学、トリブバン大学、ナショナル・カレッジ

抽出方法 機縁法により研究協力を得られた日本の3大学、ネパールの4大学を抽出。

調査時期 2025年9月1日～12月9日

回収状況 計画標本を900（ネパール400、日本500）とし、質問紙、Google formより722人（日本378人、ネパール344人）より回答を得た。

回答者の概要

- 日本の回答者がやや多いものの半数ずつ（日本52.5%、ネパール47.5%）
- 国公立、女性が多い（国公立62.6%、私立37.4%）（女性75.9%、男性23.8%、その他0.3%）
- 文系が多く、1,2年生が多い（文系68.6%、理系31.4%）（1年生36.7%、2年生32.0%、3年生15.9%、4年生13.7%）
- 年齢は17歳～34歳で平均年齢は20.08歳。

質問紙調査内容

変数名	調査項目
精神的健康	
精神的健康	The General Health Questionnaire12 (GHQ12)
自尊感情	2項目自尊感情尺度(箕浦・成田、2013)
対人不安	不特定他者への不安、特定他者への不安(角尾、2003)*
孤独感	日本語版孤独感尺度(Igarashi, T. (五十嵐祐)、2019)
家族関係	
家族機能	FFS (Family Functioning Scale) (神崎他、2012)*
家族との交流	独自に作成
家族の結束・連帯	独自に作成
家族主義的福祉規範	独自に作成
婚姻出産規範	世界価値観調査より
多様な家族形態への支持	独自に作成
家族関係の満足度	「家族関係に満足している」

*質問数を減らすため、代表的な項目を抜粋

変数名	調査項目
友人関係、人間関係	
友人との内面的関係・表面的関係	独自に作成
友人との道具的關係	独自に作成
友人・地域におけるコミュニケーション	独自に作成
友人関係の満足度	友人関係に満足している
近代的価値観(再帰性)	
再帰性(自律)	Remelie (2023)、Archer(2014)より
再帰性(コミュニケーション)	
再帰性(メタ)	
再帰性(断片)	
再帰性(SNSコミュニケーション)	小川(2024)
機会構造(世代間移動)の所感	独立行政法人 労働政策研究・研修機構 (2023)
挑戦への意欲	独自に作成
自己決定感	第6回世界価値観調査
業績主義	世界価値観調査Economic value

SNSに関する調査項目：独自に作成

何歳から携帯電話を使い始めましたか

普段使用しているソーシャル・メディア(SNS)

平日や休日の1日にSNSに費やす平均時間

普段、SNSをどのくらいの頻度で利用していますか

SNSを利用する主な目的

あなたはSNSのアカウントをもっていますか (Instagram, Facebook, Twitterなど)

インスタグラムのフォロワー数とフォロー数とは何人ですか

表アカウント(普段利用している表向きのアカウント)は鍵アカウントですか

・あなたは、SNSのサブアカウントを持っていますか

・サブアカウントは鍵アカウントですか、裏アカウントはありますか、裏アカウントは鍵アカウントですか、SNSのアカウントを使い分ける理由

SNSの表アカウントや裏アカウント、サブアカウントでは、どれくらい投稿をしていますか。

SNSの裏アカウントやサブアカウントの使用用途

SNSに投稿した後、1日にどれくらいの回数、その投稿の「いいね」やコメントを確認しますか

SNSに投稿してから1時間以内に何度スマホでフィードを開きますか

SNSの利用について

結果

◎各尺度の信頼性:内的妥当性 概ねあり

GHQ (12項目) $\alpha = .801$

自尊感情 (2項目) $\alpha = .780$

不特定他者への不安 (2項目) $\alpha = .878$

特定他者への不安 (2項目) $\alpha = .741$

孤独感 (3項目) $\alpha = .739$

FFS I:情緒的絆と結束 (2項目) $\alpha = .865$

FFS II:外部との関係 (2項目) $\alpha = .653$

FFS III:家族規範 (2項目) $\alpha = .800$

FFS IV:役割と責任 (2項目) $\alpha = .685$

FFS VI:コミュニケーション (2項目) $\alpha = .825$

問1：日本とネパールの比較

1) 精神的健康について

(1) GHQ (t検定)：日本 $>$ ネパール ($p < .001$)

*得点高いほど精神的健康度は低い

(2) 自尊感情 (t検定)：日本 $<$ ネパール ($p < .001$)

(3) 対人不安 (t検定)

① 不特定他者への不安：日本 $>$ ネパール ($p < .001$)

② 特定他者への不安：日本 \equiv ネパール

(4) 孤独感 (2要因分散分析)

日本 $<$ ネパール ($p < .001$)

交互作用なし

同居 \leq 一人暮らし ($p = .086$)

問I：日本とネパールの比較

2) 家族機能尺度 (FFS) について

- I. 情緒的絆と結束：日本 \equiv ネパール
- II. 外部との関係：日本 $>$ ネパール ($p < .001$)
- III. 家族規範：日本 $<$ ネパール ($p < .001$)
- IV. 役割と責任：日本 $<$ ネパール ($p < .001$)
- VI. コミュニケーション：日本 $<$ ネパール ($p < .01$)

3) 家族関係の満足度：日本 \equiv ネパール

4) 友人関係の満足度：日本 \equiv ネパール

問1-2：家族・友人関係と精神的健康との関連

◎日本

家族機能 (I、IV、VI) と自尊感情：正の相関

友人関係の満足度と孤独感：負の相関

** $p < .01$, * $p < .05$

／各尺度 家族・友人関係	GHQ-12	自尊感情	不特定 他者不安	特定 他者不安	孤独感
I：情緒的絆と結束	-.268**	.542**	.035	-.128*	-.296**
II：外部との関係	-.194**	.382**	.025	-.078	-.210**
III：家族規範	-.124*	.270**	.175**	.146**	-.061
IV：役割と責任	-.210**	.404**	.079	.051	-.111*
VI：コミュニケーション	-.196**	.474**	.070	-.053	-.241**
家族関係の満足度	-.231**	.388**	-.066	-.186	-.297**
友人関係の満足度	-.314**	.250**	-.198**	-.291**	-.514**

◎ネパール

家族機能IとGHQ-12:やや弱い負の相関

友人関係の満足度と孤独感:負の相関

日本と比較すると各変数間の相関は弱い

** $p < .01$, * $p < .05$

／各尺度 家族・友人関係	GHQ-12	自尊感情	不特定 他者不安	特定 他者不安	孤独感
I:情緒的絆と結束	-.379**	.297**	-.055	-.032	-.127*
II:外部との関係	-.251**	.171**	.093*	-.132*	.027
III:家族規範	-.149**	.211**	.078	.089	-.006
IV:役割と責任	-.277**	.230**	.018	-.059	-.106
VI:コミュニケーション	-.334**	.254**	-.017	.078	-.074
家族関係の満足度	-.286**	.243**	-.023	-.047	-.175**
友人関係の満足度	-.170**	.182**	-.077	-.247**	-.442**

ネパールの家族・親戚の範囲

7/14 アキ ヤカミ

※ 第二係人の名を第一係人より **मौतेनी** - आमा (継母) (継父)

ネパールの **नेत्र**, **लिङ्ग** (種) → **का** 種

※ **मकजु** の名を **का** の名で呼ぶ

※ 結婚してはいない親族 ... **स** の親族

※ 7代先の結婚指し **का** の名で呼ぶ

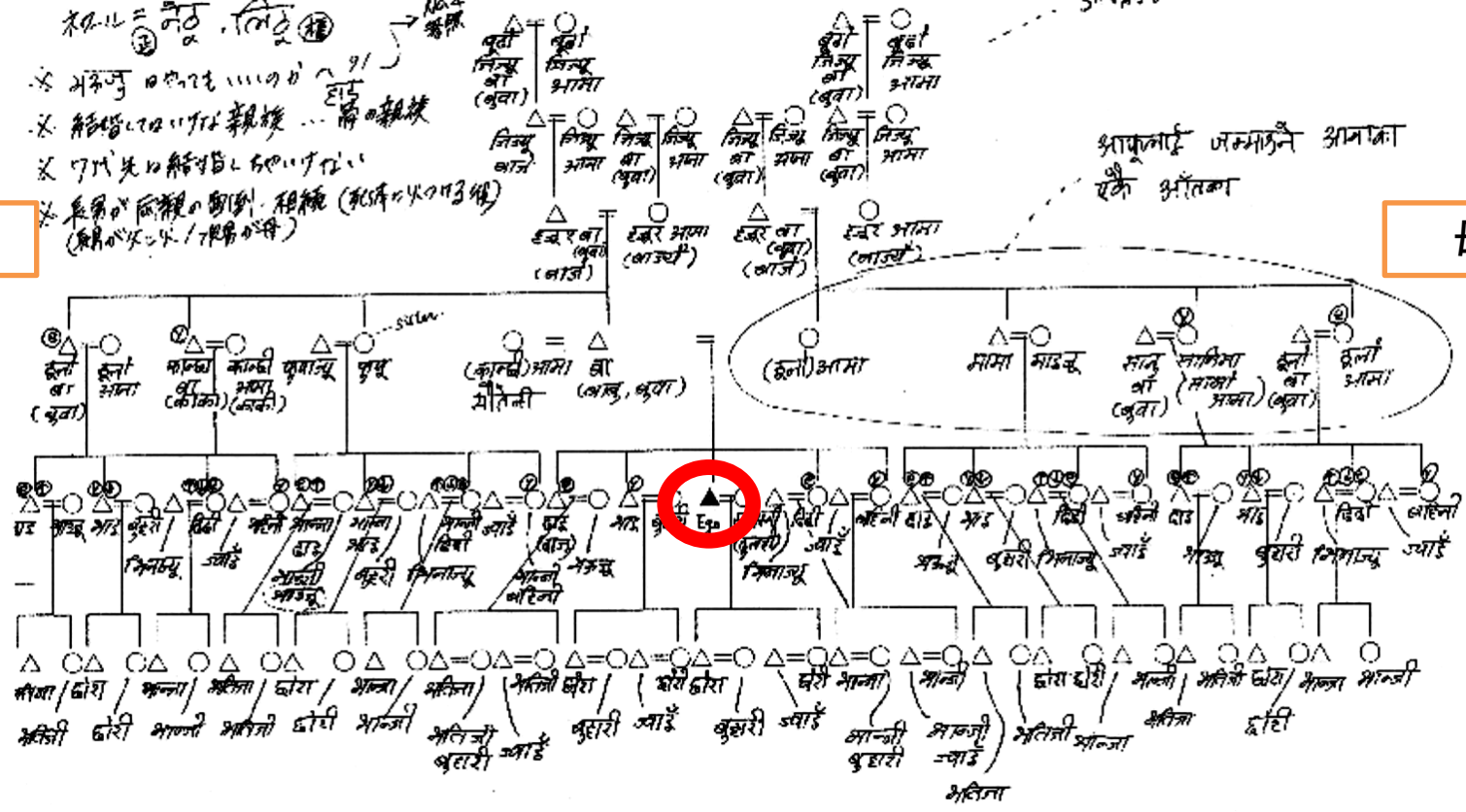
※ 長男が **स** の親の **स** の親 (継母/継父) (継母/継父)

3代前 **स** の親

आफुलाई जन्माउने आमाका एकै आँतका

父方

母方



問1-2：どのような社会構造が 関係しているのか 重回帰分析の結果

日本とネパールの標本を取り出しそれぞれ対人不安（不特定他者）を従属変数、家族関係、メリトクラシーや機会構造への評価、個人化の度合い、暮らしぶりを独立変数とした重回帰分析を実施

	負の影響	正の影響
日本	人生の自由度 友人とのコミュニケーション	
ネパール	FFS（情緒的絆と結束）、 人生の自由度	家族の結束・連帯

日本	調整済R ² =.122	p<.05	n=284
ネパール	調整済R ² =.132	p<.05	n=257

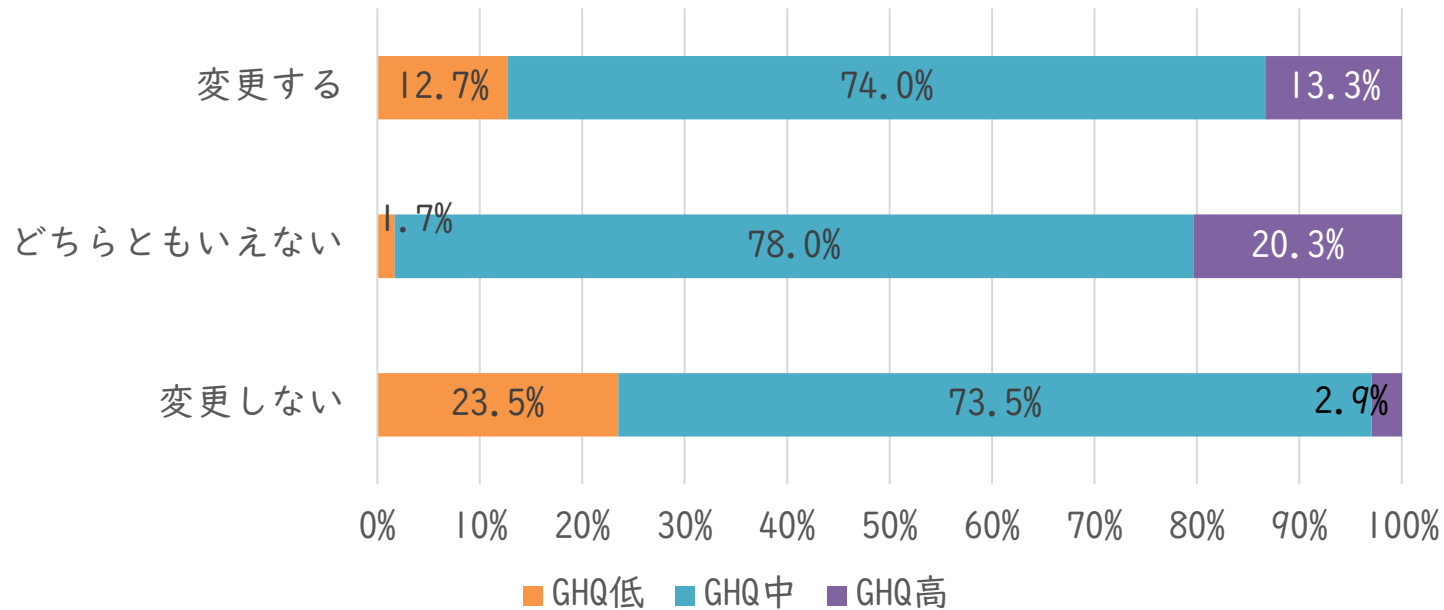
問1-2：どのような社会構造が 関係しているのか 重回帰分析の結果

日本とネパールの標本を取り出しそれぞれGHQ12を従属変数、家族関係、メリトクラシーや機会構造への評価、個人化の度合い、暮らしぶりを独立変数とした重回帰分析を実施

	負の影響	正の影響
日本	人生の自由度 暮らしぶりの良さ	
ネパール	FFS (情緒的絆と結束), FFS (外部との関係) 人生の自由度 暮らしぶりの良さ	家族の結束・連帯

日本 調整済R²=.144 p<.05 n=279
ネパール 調整済R²=.257 p<.05 n=240

「家族のために自分の予定を変更すること がある」とGHQの3分類



$\chi^2=14.174, df=4, p=.007 n=278$

家族は、心身の健康を保つが、自身の選択を我慢してまでも家族にあわせると不健康になることを示している

問2で用いた変数の説明

家族の結束・連帯（学生たちと考案）

ふとした瞬間に家族の顔を思い浮かべる
家族が落ち込んでいると、私も落ち込む
家族のために自分の予定を変更することがある
家族の時間は、自身にとって重要だ
親に頼りにされたい
親はいつも自分の味方でいてくれる

選択肢全くそう思わない、どちらかといえばそう思わない、どちらかといえばそう思う、強くそう思うを1~4点に換算

家族機能尺度

(FFS, Family Functioning Scale)

VI：コミュニケーション

私たち家族は感情を損なわれるようなことがあったとき、そのことについて家族に、隠さず率直に話をする事ができる
私の家族は、問題が生じると互いに協力し合って解決する

再帰性（自律）

他人の評価より、自分の考えを大切にしている
自分の夢を追うために一時的に家族関係を犠牲にしてもかまわない
自分自身をよく理解しており、自分の能力に自信を持っている
将来について明確な考えを持っている

再帰性（メタ）

他の人の感情や状況について、複数の視点から考える
意思決定を行う際には選択が他の人に及ぼす影響について検討する
自分自身をどのように改善するかについてよく考える
社会をどのように改善するかについてよく考える

選択肢：非常によく当てはまる、だいたい当てはまる、少し当てはまる、どちらとも言えない、あまり当てはまらない、ほとんど当てはまらない、全く当てはまらないを7~1点に換算し合計

再帰性（SNSコミュニケーション）

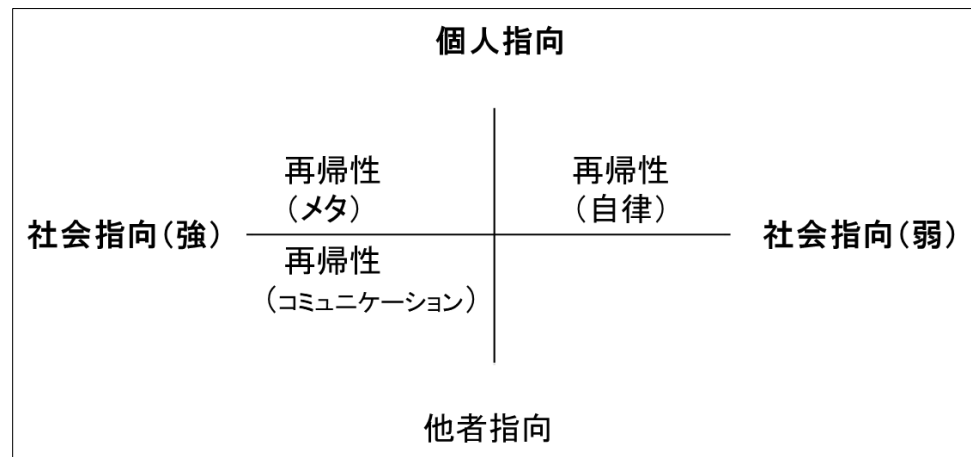
SNS上で、他人と異なっていたとしても自身の考えを発信できる（逆転項目）
投稿する内容は、他人から好ましく思われそうかどうかを意識して決める
投稿する前に「どのような内容にすれば反応が多くなるか」を考えることがある。

選択肢：かなり当てはまる、やや当てはまる、あまり当てはまらない、全く当てはまらないを4~1点に換算し合計。

問2：ネパールと日本の青年の再帰性に 違いはあるのか

◎再帰性…後期近代の特性であり、個人が自身の思考、感情、行動を省察し、アイデンティティとライフスタイルについて選択を行う能力を指す（Giddens 1991=2005）。

- ・個が確立され、且つ、社会指向である再帰性（メタ）が理想
- ・再帰性（メタ）と再帰性（自律）の違いは、他己的な省察の強弱
- ・再帰性（コミュニケーション）は他者指向的で個の確立が弱い
- ・再帰性（SNSコミュニケーション）は、SNS上の人間関係のなかで自己のふるまいを変える姿勢



t検定の結果

仮説では、個人化がすすみ、伝統的規範が弱く、機会に恵まれ、自由な生き方ができている日本の方が、再帰性（自律）、再帰性（メタ）の得点が高いとしたが・・・

- ・ネパールの若者の方が再帰性（自律）、再帰性（メタ）得点が高い
- ・日本の若者の方が再帰性（SNSコミュニケーション）得点が高い

変数	国籍	n	平均値	平均の差	標準偏差	t値	df	p	信頼区間	
									下限	上限
再帰性 (自律)	日本	372	15.55	-3.96	3.61	-14.55	708	0.000	-4.49	-3.42
	ネパール	338	19.50		3.63					
再帰性 (メタ)	日本	369	20.08	-1.04	3.87	-3.43	685	0.001	-1.64	-0.44
	ネパール	318	21.12		4.08					
再帰性 (SNSコミュニケーション)	日本	353	7.47	0.64	1.74	4.62	679	0.000	0.37	0.92
	ネパール	328	6.83		1.90					

問2-2：どのような社会構造が 関係しているのか 重回帰分析の結果

日本とネパールの標本を取り出しそれぞれ再帰性（メタ）を従属変数、家族関係、メリトクラシーや機会構造への評価、個人化の度合い、暮らしぶりを独立変数とした重回帰分析を実施

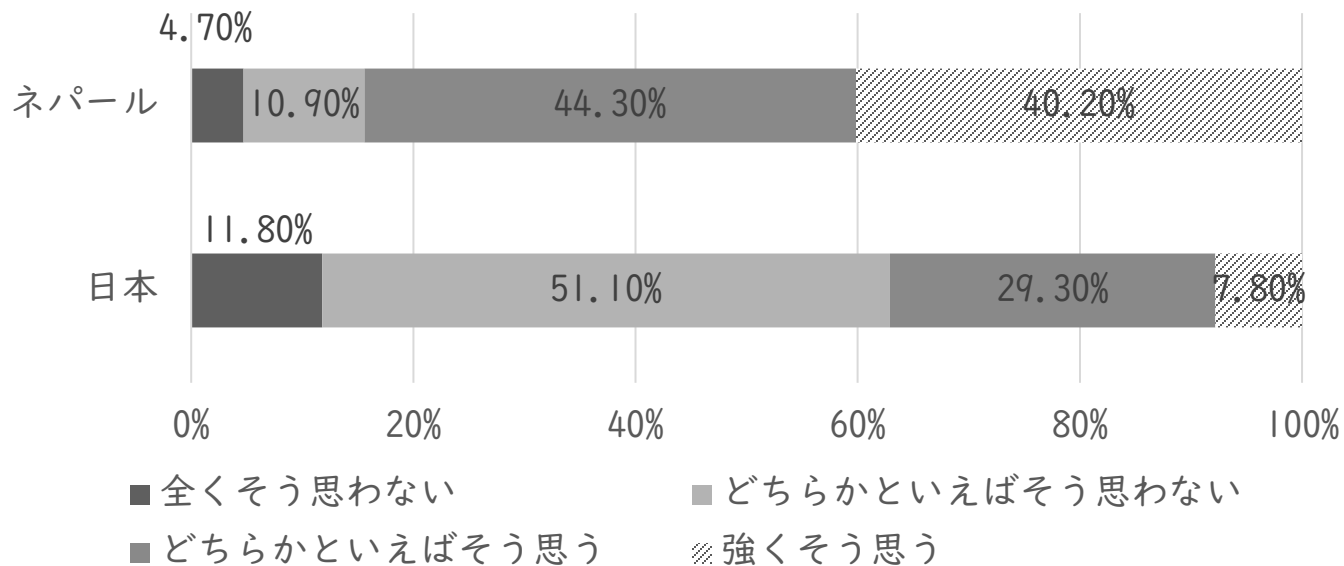
正の影響

日本	家族の結束・連帯	機会構造の評価（私は両親よりも経済的に豊かになれると思う）
ネパール	家族の結束・連帯 FFS（コミュニケーション）	

日本 調整済 $R^2 = .114$ $p < .05$ $n = 278$
ネパール 調整済 $R^2 = .158$ $p < .05$ $n = 510$

両国の違いの構造的背景 機会構造に注目すると

クロス集計の結果、「11.2 私は両親よりも経済的に豊かになれると思う」について、「強くそう思う」と回答した人の割合は日本において7.80%だったのに対し、ネパールにおいては40.20%で、ネパールの若者の方が経済的上昇の機会を肯定的に捉えていることがうかがえた ($\chi^2=192.26$, $df=3$, $p<.001$, $n=713$)。



メリトクラシーに関わる設問 日本の若者において閉塞感が漂う

人生の自己決定感

「生まれや性別などに関わらず、自由な生き方ができる」について、クロス集計を行った結果、「強くそう思う」と回答した人の割合はネパールにおいて40.0%、日本において28.0%

($\chi^2 = 24.33$, $df=3$, $p < .001$, $n=712$)

業績主義への評価

よい人生を送るための条件（真面目に努力することの重要さ）について、「とても重要」と回答した人の割合は、ネパールにおいて71.1%であったのに対し、日本では45.0%であり、ネパールの若者の方が努力を重視

($\chi^2 = 51.07$, $df=3$, $p < .001$, $n=715$)。

調査から得られた知見

◎分析を通してみえた日本

- 不特定他者不安がネパールより高い
⇒2024年度の仮説「抽象的な他者や漠然とした不安？」を支持
⇒SNS上の人間関係のなかで自己のふるまいを変える姿勢も高いこととも関連している可能性
- 精神的健康、自尊感情が低い
- 家族機能はネパールより低いが、自尊感情への家族関係の関連度が高い。
⇒ネパールよりも家族関係の在り方に差がある可能性
- 経済的上昇への期待感がある者、人生の自己決定感がある者、努力を重視する者がネパールより少ない
⇒閉塞感がある可能性

◎分析を通してみえたネパール

- ・ネパールの若者ほど、「社会は日々変化しており、今日当たり前のことが明日もそうだと限らない」と感じているものの、GHQ12得点は日本よりも低く（健康的）、自尊心は日本よりも高い
- ・ネパールでは、結婚出産規範、家族主義規範、家族機能の高さ、血縁を介した友人獲得経路といった人間関係の特徴がみられ、日本と比べて、ギデンズのいう個人にとっての伝統の「保護的枠組み」が機能していると思われる。一方で、日本と比べて「夢を追うために一時的に家族を犠牲にしてもかまわない」と回答している人が多く、両国の家族関係の在り方の差を示唆した。
- ・ネパールだけを抽出した分析では、「家族のために自分の予定を変更する」と回答した人においてGHQ12得点が高いことから、ほどよい関係性を保てない場合、心身を病む可能性があることを示唆している
- ・ネパールでは、「よい人生を送るには人脈やコネに恵まれることが重要」と回答する人の割合が日本よりも高い一方で、業績主義の恩恵を享受できている人は日本よりも多く、「多少のリスクが伴っても、新しいことに沢山挑戦したい」という意欲も4倍ほど高いことから、属性主義から業績主義への移行期にあり、その恩恵を受けている人が現れているとみることができ

婚姻・出産規範、家族主義規範が強く、外部との関係を除く家族機能も日本よりも機能友人獲得経路も血縁を介した出会いが日本の約2倍である。

成功にあたって重要なのは、コネクションであると回答した人の割合も日本よりも16ポイント高い

今後の研究計画

- ・量的分析をさらに詳細に行う。
- ・2025年度に実施した質問紙調査内で協力を募り、了承を得た対象者に、聞き取り調査を行い、量的分析と関連させながら質的分析を行う。
- ・「家族」の範囲（疑似家族的なつながりも含むのか？）
- ・「家族の在り方」の差が示す関係性の違い（個人化、親密圏の変容、家族機能の関係）
- ・ネパールの場合：カースト、国立/私立、地方の若者（大学生/非大学生）のクラスター別の分析

研究成果

佐野麻由子+社会調査実習班(2026)『日本とネパールにおける若年層の悩み、生き方、対人関係の国際比較』福岡県立大学 人間社会学部 公共社会学科.

Mayuko SANO (2026) *An International Comparison of Lifestyle and Interpersonal Relationship concerns among Young People in Japan and Nepal*(報告書の英語概要版).

2026年3月20日公開講座「日本とネパールの比較からみえた最近の若者」附属研究所大セミナー室で報告予定
⇒SNSに関する調査項目はここで報告

主な文献

- ・ Archer, Margaret S (2014) Structure, Agency and the Internal Conversation, Cambridge University Press.
- ・ Giddens, Anthony (1991) Modernity and Self-Identity: Self and Society in the Late Modern Age, Polity Press. (=2005, 秋吉美都・安藤太郎・筒井淳也訳『モダニティと自己アイデンティティ——後期近代における自己と社会』ハーベスト社。)
- ・ Igarashi, T (2019) “Development of the Japanese version of the three-item loneliness scale,” BMC Psychology, 7(20):1-8 (Retrieved, June 5, <https://doi.org/10.1186/s40359-019-0285-0>) .
- ・ 井上果子 (2012) 「中学生版 精神健康調査票JHQ-12の作成」 『横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援総合センター研究論集』 (12):53-59.
- ・ 神崎光子・大滝千文・前田一枝・堀妙子・竹明美・大塚弘子・野口多恵子・前原澄子 (2012) 「FFS (家族機能尺度) 日本語版の開発—養育期の家族を対象とした信頼性と妥当性の検討—」 『日本看護科学会誌』 32 (1) : 50-58.
- ・ Rosenberg, Morris, 2006, Rosenberg Self-Esteem Scale (RSE) (Retrieved June 5, 2025, <https://www.apa.org/obesity-guideline/rosenberg-self-esteem.pdf>)
- ・ 佐野麻由子・吉岡和子 (2025) 「社会変動期にあるネパールの若年層の抑うつや自殺の増加と階層差の関連：日本との比較から(1)」 『福岡県立大学人間社会学部紀要』 33 (2) : 99-112.
- ・ 角尾美奈 (2003) 「対人不安傾向の再検討—不特定の他者に対する不安傾向と特定の他者に対する不安傾向—」 『東京家政大学研究紀要43 (1) : 167-173.